

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272300740		
法人名	有限会社メープルの里		
事業所名	グループホームメープルの里ときわ		
所在地	〒038-1214 青森県南津軽郡藤崎町常盤字三西田8-8		
自己評価作成日	平成24年10月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成24年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の人達との交流の機会を多く持つようになっている。町内会の夏祭りへの手伝い・参加。ホーム行事の餅つき時には子供会と一緒にいき、バーベキュー時には町内の人達が焼きそばを作って下さる。近隣の保育園児と一緒に畑作業(さつま芋植え～収穫)、サークルの慰問、小・中学校の生徒さん福祉体験や見学。この他、町での祭りごとには出掛けている。入居者様の要望希望には出来る限り叶える事が出来るよう職員全員が入居者様本位を元に対応できるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

地域に根ざしたグループホームとして、保育園児と畑で作物の苗植えから収穫までを行うなど、園児の家族を含めて交流されたり、小、中学校生の福祉体験も積極的に受け入れている。町のイベントへの参加、町の歌謡団の訪問があったり等地域との関わりを大切にしている。毎日の生活では、週3回の入浴を基本としゆっくりと入浴でき、また、入浴出来なかった時は次の日に入浴を促し実施している。外出についても、利用者の気分や天候の様子をみながらお弁当を持って出かけている。イベントへの参加はもとより、日々の外出支援を大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との繋がりをも取り入れた理念を掲げ、ホール内に表示する事で常に共有しながら実践している。	開設当時の理念を、地域密着も踏まえた理念に職員全員で再度考え作成した。ホールに掲示し、会議の時などに確認し、日々の業務で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への手伝い・参加や施設の行事等へお誘い。また保育園児との共同畑作業や小中学校の福祉体験・ホーム見学の受け入れを行っている。	地域の行事を手伝ったり、ホームの畑に近くの保育園児と一緒に農作物の種まきから収穫までを一緒に行うなど、積極的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	旧ときわ村の祭り「いきいきまつり」に於いて認知症の啓発・ホームの様子を掲示する事で、理解いただけるよう努めている。また、キャラバンメイトとして地域住民へ認知症啓発のお手伝いをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の場でも外部評価に向け説明を行うと共に、ご家族様からの意見を心に留め、実践向け職員間で話し合いをしている。	2ヶ月に1回の会議ではホームの行事、サービス状況を報告し、参加者から出された要望・アドバイスを職員で話し合いサービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場へ行き直接相談や電話で伺う等している。また運営推進会議の場において様々な取り組みを伝えている。	地区のグループホームの集まりや運営推進会議に町からも参加があり、アドバイスを受けている。また、成年後見人の件で相談したり協力関係を築きながら取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修へ参加すると共に、事業所内研修にて再度確認の意を含め勉強会を行っている。夜間の職員が一人となる時間帯に限り、入居者様の危険回避の為施錠する事もある。(出来る限り短い時間とし、遅勤者退社から深夜勤者出社まで)	ホーム内で身体拘束の学習会を開催し、職員の共有認識を図っている。また、玄関の鍵は夜間のみ施錠し、日中は自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1度は事業所内に於いて勉強会を行うと共に、外部での研修へも積極的に受講できるように取り組んでいる。また、お互いに注意や話し合いができるような関係作りを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部・事業所内研修で再確認し、入居者様が必要になった時には活用出来る様努めている。また、実際後見制度が必要になった入居者様には行政と情報共有・連絡を密に取り、現在活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人様・ご家族様が分からない事に対し専門用語を使わず、なるべく分かり易い言葉で説明を行い、契約時には不安なく入居出来る様努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているも殆んど活用されておらず、面会時には必ずご家族様へ意見・要望等を伺っている。また、必要に応じてお電話にて伺う事もある。	家族等の面会時に必ず声を掛け意見、要望の聞き取りに努めている。また、運営推進会議でも家族、参加者からの意見を伺い、話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表への意見等についてはその都度連絡や意見箱が設置されており、伝える事が出来る状態になっている。また、業務内容等については、毎月の会議の場で話し合う機会を設け、実践している。	会議には管理者も参加し、自由に意見を出し合い、出来ることはすぐ改善し実践している。また、職員用の意見箱を置き、直接社長が巡回時に回収している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者への手当が支給され、また新たな知識を学ぶ事でやりがいに繋がる様、外部研修へ参加できる体制がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務時間内に於いて研修受講が出来、また事業所内研修は毎月担当者が内容決定・進行する事で、ただ聞いているだけの立場から、教える・伝える立場となり、それも勉強に繋がっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターでの事例検討会や2か月に1度開催のGH意見交換会(町のGH 6事業所)へ参加する事で、様々な取り組みや工夫を伺う事ができ、自事業所にて反映出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にはご本人様と面会し、コミュニケーションをとりながら会話の中から移行や要望等を探り・伺えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や申込に来られた際にはお話を伺っている。また直接お会い出来ない場合には、お電話させて頂きお話を伺うか、ご自宅へ訪問させて頂きお話を伺う事が出来る様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様の状況・状態を把握した事から必要な支援の情報を伝え、いくつか選択出来る様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が介護されるのではなく、私たちが様々な生活の知恵や工夫(家事・畑等)を教えて頂き、お互いに支え合いながら生活して行ける様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族様へお手紙を書き、日々の生活状況や困って居る事等を伝え、共に考え支えて行く様努めている。また面会時には相談させて頂き、一緒に考えて行ける様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの病院・行きつけの美容院・地域の行事へ出掛ける事で顔馴染みの人達に声を掛けて頂き、会話を楽しむ事が出来ている。また生まれ育った場所や昔出掛けた場所へ出向き、風景を眺めながら思い出す機会を設けている。	かかりつけ医はもとより、美容院、理髪店も入居前からの馴染みの所へ行き、顔なじみの関係を維持するよう支援している。また、生まれた場所の風景を見ながら、懐かしく当時に思い出す等の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの人に合った役割を持つ事から、日々の生活が楽しみや生きがいに繋がる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時には状態を伺い、要望意見を踏まえた上で、今後のサービスに関しての情報・助言等を行っている。また退居されても地域住民としてホームとの係わりを継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、会話や表情等から要望・希望を察し、把握に努めている。	入居時に家族へセンター方式のアセスメント記入を依頼し、入居前からの意向の把握に努め、入居後は日々の会話から入居者の意向の把握に努め計画作成に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはご本人様・ご家族様、担当ケアマネから情報を頂き、また日常会話の中からも得る事が出来る様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録等や申し送りを通じて、職員間での情報を共有する事で把握出来る様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を中心とし、他職員・ご本人様から情報収集を行い、面会時にはご家族様から要望・意向を伺いながら計画作成している。	担当者を中心に、入居者、家族の意見を聞き現状に合った介護計画書を作成し実践している。初回は1ヶ月、他は3ヶ月を基本に検討会を開催している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来る限りその時の気付き等を記録に残す様にしたいと思っているもなかなか上手く出来ておらず、実際にはメモ紙や口頭で申し送られることが多いが、その物事に関する情報収集し話し合いを持っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の希望に応じての対応は出来る限り即日に行える様努めている。また温泉へ行きたい場合には、開設者の経営する温泉へいつでも行くことが出来るようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園児との共同畑作業や町内会の行事への参加、慰問を通じて地域との交流を図る事が出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様とも十分な話し合いを行い同意を得てからかかりつけ医を変更された入居者様も居られる。	入居前からのかかりつけ医の受診継続を基本としている。病状、入院等の検討で協力医へ変更する時は本人、家族と話し合い変更し、医療機関との関係も密に結んでいる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医への相談・助言を得られる体制になっている。またホームには正看護師の資格保有者が介護員としている為、日常のバイタルチェック・様子観察から職員間で話し合いを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーにて情報提供している。またご家族様や病院のSWを通じ情報提供頂き、状態の把握に努める事で早期退院へ繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様へは入院時や運営推進会議時等に主治医・協力医療機関または他介護施設への移行となる事を説明し、入居者様が安心して次へ向かう事が出来る様努めている。	入居当時から重度化・看取りについてのホーム対応を説明している。本人、家族が重度化しても安心して次へ向かう事が出来るよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救急救命の講習を受講しており、事故発生時には速やかに対応出来る様、また勉強会にて再確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立会い・防災(業者)立会いの他事業所単独での訓練を入居者様も含め実施している。また緊急連絡の非常通報には近隣住民も登録して頂き協力を得られている。	災害時の訓練は年2回実施している。地域の協力も得られる体制にあり、職員は市の緊急防災訓練に参加し得た知識、体験を伝達し共有して体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	周囲の状況を見ながら声掛けに注意するように努めている。また敬う気持ちを常に持ち、接するよう心掛けている。	職員は入居者を敬う気持ちを持ち、特にトイレ誘導時の声がけには注意しプライバシーを損ねないように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決めつけて係るのではなく、いくつかの選択肢を用意したり、会話の中から希望に気づき対応出来る様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日の要望を叶える事が出来る様、その日の勤務職員間で話し合い、出来る限り即日対応できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	時にはアドバイスさせて頂いたり、こちらからの話し掛けで美容院へ行くことが出来る様に。また何気ない会話の中で話題にし、ご本人様に気付いて頂けるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞き献立に取り入れたり、買い物・準備・片付けを一緒に行い、その人の出来る事が発揮出来る様支援している。また状態に応じミキサー・刻み食と形状を変え、回数を変え提供している。嫌いな物は代替えを準備し提供している。	献立は同法人事業所と同じに設定されているが、入居者の希望があれば、いつでもメニューに取り入れられている。食事の準備、後片付けは、入居者と職員と一緒に楽しそうに行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の他必要に応じて水分量を記録し把握に努めている。また食事量確保困難な場合には栄養補助食品等を活用したり、一日5食で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの声掛けや洗面所への誘導、義歯洗浄介助をそれぞれに合わせ対応している。また歯磨き・うがい困難者には毎食緑茶を飲んで頂く事で口腔内清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェック表を確認しながら、また個々の排泄パターンを把握し誘導する事で失敗の軽減に努めている。また声掛けを工夫する事で気持ち良くトイレへ向かう事が出来る様支援している。	排泄表で排泄のパターンを把握し、トイレ誘導を実施している。また、声掛けの工夫等でトイレでの排泄に積極的に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳提供や水分の確保。医師の指示を受け内服処方頂き対応も何をどれくらい服用でどのような排便となるか観察し、本人にとって良い排便となる様に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴は週3回と決まっはいるものの、希望に応じる事は可能。また声掛けに拒否には時間をズラしたり、次の日に入浴出来る様にしている。	週3回の入浴日を設け、入浴には時間をかけ一人ひとりゆっくり入浴出来るよう支援している。その日に入浴できなかった場合には、翌日入浴出来るよう職員体制を整えて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない入居者様にはホットミルクを提供したり、ホールソファで寄り添い会話し対応。また添い寝する事で安心して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書にて副作用も含め周知出来るようにしている。また内服変更時には状態の変化に留意し、時によっては医療機関や調剤薬局薬剤師へ連絡、助言頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとり一人の出来る事を把握し、毎日の生活の中での役割がある程度決まっている。また畑仕事・買い物・ドライブ・祭りへ出掛ける事で気分転換に繋がる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	彼岸やお盆には寺・墓参り。その人の生まれ育った場所へ出掛ける等している。また季節を感じて頂けるよう花見・夏祭り・ねぶた(3市町)・紅葉等へ出掛けている。	年間の行事の他、町のイベント・買い物・希望の外出等、積極的に外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出掛ける時には手提げ袋に財布を入れ手渡し、買い物された時には自分で支払う事が出来る様支援している。また支払う直前に財布を手渡し、支払う事が出来る様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはいつでも電話が掛けられる様になっている。またこちらから電話を掛けてみないかとお話する事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には入居者様が活けられた花を飾り、窓の外にはグリーンカーテンや強い日差しを和らげるようにブラインドを下げ調整している。ホールには季節ごとの飾りを入居者様と一緒に作り飾り付けしている。	食堂、居間は広くゆったりでき、ソファもそれぞれ居心地よく座ってテレビが見られる環境となるよう配慮している。玄関には入居者が生けた花が飾っており、家庭的な雰囲気が感じられる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う者同士隣に座り食事をしたり、ソファに座りのんびり出来る様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム入居前に使用していた物を持参される入居者様は少ないが、入居してからの写真等を飾っている。	居室は整頓され、来訪者は椅子に座ってゆっくり話ができる環境がある。家族の写真を飾るなど、その人らしく、居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや介助バーを設置。また夜間帯一人でトイレへ向かう事が出来る様、ホールの椅子を並べ、伝っていくことが出来る様工夫している。		